

# TICAD9

一般社団法人アフリカ開発協会の取組

2025年9月

## AFRECO

一般社団法人 アフリカ開発協会

〒102-0094 東京都千代田区紀尾井町 4-1

TEL. 03-3511-8911 info@afreco.jp [www.afreco.jp](http://www.afreco.jp)

## はじめに

---

TICAD9 は、2025 年 8 月 20 日 - 22 日に横浜で「革新的な課題解決の共創、アフリカと共に」というテーマで開催された。

TICAD の 30 年を超える歴史を振り返ると、日本は常にアフリカの国々と同じ目線でパートナーとして開発に取り組んできた。その間にアフリカの国々から求められることも随分と様変わりしたと感じるし、支援の時代は過ぎ投資の時代に入ったと感じることも多い。今回の TICAD でもビジネスの交流が盛んで、300 を超える MOU が結ばれたということだ。それでも、そのビジネスを支え持続可能な成功に導くためには、基礎インフラ、基礎教育、そしてアフリカの誰にでも届く基本的な医療サービスがまだ十分とは言えない。一般社団法人アフリカ開発協会は、TICAD9 で医療と基礎教育に関する 2 つのセミナーを開催したが、いずれもほぼ満席で興味の高さがうかがわれた。ビジネスだけでは、日本はまだアフリカの良いパートナーと言えないのかもしれない。

当協会の運営は、ありがたいことに、いろいろな分野の会員企業・個人によって支えられている。建設関係、学术界、医療関係から、コンサルタント、金融関係、電力関係など本当に幅広い。ビジネス色が益々濃くなった今回の TICAD で、会員の皆様がアフリカで成功を収めるために、当協会の役割は二つあると認識を新たにした。

一つは、会員企業・個人を横断的につなぐことだ。どんな分野の仕事も、その分野だけでアフリカへ進出するのはハードルが高い。これは、今、開発を進める途上国に多くいえる事だが、がむしゃらに開発をするだけでなく自然環境の維持・改善や格差是正など様々な課題を同時に解決しなければいけないからだ。当協会には、もっと会員同士をつないで「共創」を仕掛けることが求められているのかもしれない。

もう一つは、会員の皆様がアフリカでのビジネスに十分打ち込めるように、基礎インフラ、基礎教育、基本的な医療サービスの提供がアフリカ全土でなされるよう支援を促す活動をする必要があるという点だ。これには会員企業の皆様からのご協力、ご支援も必要だが、政府への提言、働きかけも欠かせない。

アフリカにおけるビジネスの展開支援と社会生活の改善推進を焦点に、記念すべき 10 回目の TICAD まで力を尽くして参りたい。

一般社団法人アフリカ開発協会  
会長 矢野 哲朗

# TICAD9 公式テーマ別イベント セミナー主催・共催・登壇

## 【日・アフリカ共創で拓く健康と経済の未来：官民連携の最前線】

8月20日（水）10:00-14:10 展示ホールD S-03

内閣府、内閣官房主催

福永哲也参与登壇



アフリカの保健課題解決に向けて官民が連携して問題解決にあたっている例として、当協会がアフリカ開発銀行の助成（Policy and Human Resource Development Grant）を得て9月からケニアで実施する予定の『Improving Medical and Healthcare Services with Mobile Technology ~ To Strengthen the Infrastructure for Medical Information』について、福永哲也参与が説明した。

最初にアフリカ開発銀行の Education and Skills Development Division のマネージャーMs. Hendorina Doroba からアフリカ開発銀行グループの説明やアフリカ

の保険システムに対する銀行の考え方などを解説。その後、当協会福永参与から、当該企画はジョモ・ケニヤツタ農工大学医学部をパートナーに会員企業の株式会社ジー・キューブ、株式会社クニエと共に展開していき、4つの目的を果たしながら課題、問題点を抽出、その上で政策・制度への提言を行うことを発表した。（添付参考資料参照）

本セミナーには、当該企画のアフリカ開発銀行担当者 Dr. Peter L. Ogwai Ogwang も参加しており、8月23日に今後の企画の進め方などを再確認できた。



## 【アフリカにおける人間と自然の対立を監視するデジタル公共インフラ（DPI）と地域指揮統制センター（CCC）】

8月20日（水）15:20-16:50 展示ホールD S-03

ルサカ協定タスクフォース主催、一般財団法人リモートセンシング技術センター共催

矢野哲朗会長登壇



ケニアにある CCC を中心に DPI を利用して、国境を越えて気候変動や自然災害、野生動物との共存や密猟撲滅を協働していく企画。この度、ケニア政府から CCC 設立の要請が日本政府に発出された。この過程で長く支援をしてきたのが、当協会会員のリモートセンシング技術センター。ようやく具体化が進む見通しとなり、そのお祝いの意味を込めてケニアの観光・野生生物省大臣 H.E.Ms. Rebecca Miano を矢野哲朗会長が紹介。H.E.Ms. Miano がケニア大統領閣下の基調講演も代読した。

## 【TICAD8 から始まったアフリカ全土に裨益するチュニジアでの保健事業～徳洲会、JICA と共に】

8月21日(木) 12:40-14:10 展示ホールD S-10

アフリカ開発協会主催、徳洲会グループ共催

### プログラム

開会の挨拶 (矢野哲朗会長)

徳洲会メディカルグループ：歴史と国際支援プロジェクトのための哲学 (東上震一理事長)

TICAD8 から始まったプロジェクトとその経緯 (長谷川仰子事務局長)

東レ・メディカル株式会社 (医療用具輸出課 山崎淳主任部員)

第三国研修「アフリカ諸国のための心臓学・循環器学」

(独立行政法人国際協力機構 (JICA) 原昌平理事)

第三国研修一回目を終えて (湘南鎌倉総合病院 齋藤滋心臓センター長)

アフリカ開発協会 その他のアフリカの国での活動について (長谷川仰子事務局長)

株式会社 SOIK (鵜飼朋子ビジネス開発マネージャー)

株式会社 Warrantee (庄野裕介代表取締役)

株式会社ジー・キューブ (西村賢治代表取締役)

閉会の挨拶 (佐藤正明副会長)

本セミナーは、神奈川県知事黒岩祐治氏、副知事首藤健治氏ご臨席のもと、ほぼ満席の状態で開催された。テーマは主に以下3点。1) 徳洲会グループの活動紹介 2) アフリカ開発協会の活動紹介 3) JICA、徳洲会、アフリカ開発協会での協力、実現したチュニジアでの第三国研修報告。



#### 1) 徳洲会グループの活動紹介

徳洲会グループは、故徳田虎雄創設者の「すべての人は平等である」という考えを医療の現場でも実践し、いつでも、どこでも、誰でもが最高の医療を受けられる社会を築くことを使命としている。

日本国内のみならず世界42カ国に医療支援を行い、アフリカ大陸では17カ国に171台の透析器を寄贈、透析センターの運営も湘南鎌倉総合病院の小林修三院長を中心に指導してきた。トレーニングそのものは、医療スタッフ(医師、看護師、メディカル・エンジニア)を招聘

する場合もあれば、徳洲会グループの医師ほかアフリカに赴く場合もある。

その延長として2018年からは、タンザニアのドドマ大学とベンヤミン・ムカバ総合病院とで腎移植プロジェクトを展開してきた。東京女子医大病院の協力も得てアフリカの医療スタッフによる腎移植を成功させ、現在は移植センターをベンヤミン・ムカバ総合病院に設立するプロジェクトが進んでいる。他にもコンゴ民主共和国のキンシャサ警察病院への支援、レソト王国のクィーンマムハト病院への支援など、枚挙にいとまがない。

また本年、米国のNewsweek誌で、湘南鎌倉総合病院が日本の最良病院の1つに選ばれた。



## 2) アフリカ開発協会の活動紹介

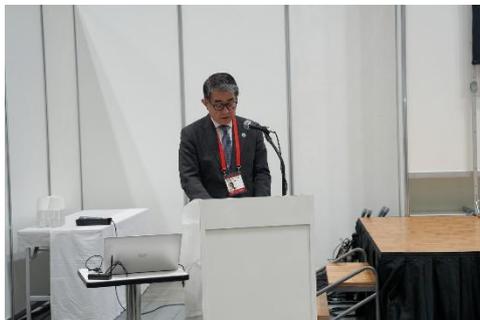
アフリカ開発協会には TICAD V の後、在京アフリカ大使やアフリカで活躍する医療従事者からアフリカ医療に関する様々な相談が持ち込まれるようになり、TICAD VI の際にサイド・セミナー「アフリカで活躍する医療従事者のネットワーク作り」を開催した。その後 TICAD7 までこのセミナーをベースにした勉強会を継続、2017 年には内閣官房に「アフリカ健康構想」を立ち上げるべきと進言し、その結果 2019 年に「アフリカ健康構想に向けた基本方針」が発表された。

並行して、タンザニアのドドマ大学医学部と MOU を結び、外務省と共に医療機器の導入を進めている。また会員企業の一般財団法人臨床工学国際推進財団の協力を得て、今秋、ドドマ大学にバイオ・メディカル・エンジニア・コースが開講する。ケニアでは、ジョモ・ケニヤッタ農工大学医学部と MOU を結び、アフリカ開発銀行の支援を受けて、会員企業のジー・キューブとクニエと共にモバイル技術を活用したケニアでの医療・保健サービスの向上を目指した企画を展開していく。

その他にも、SOIK や Warrantee などの会員企業を支援し、また協力して医療分野での活動を活発化している。

## 3) JICA、徳洲会、アフリカ開発協会が協力、実現したチュニジアでの第三国研修

アフリカではリウマチ性心疾患がいまだに蔓延しており、多くの若い患者、特に出産適齢期の女性が心不全に苦しんでいる。そのうち 6 割が僧帽弁狭窄症の患者で、経皮経静脈的僧帽弁交連切開術(PTMC)



が最良の解決策（治療法）とされている。この方法は、体への負担が少ないため妊婦にも使えるし、患者は翌日には歩いて退院できる。この PTMC に使うカテーテルが、日本で開発され、東レ株式会社で製造されて、東レ・メディカルが販売・輸出しているイノウエバルーンである。

アフリカ開発協会は東レ・メディカルと共にイノウエバルーンとその技術をアフリカ全土に広めるべく、TICAD8 ではチュニジアをハブに、JICA の支援のもと、12 カ国 14 人の医師を招聘してワークショップを開催した。好評を得てチュニジアと日本両政府がこの活動を継続していくことを後押しし、2025 年度から 27 年度まで毎年、JICA 主催第三国研修「アフリカ諸国のための心臓学・循環器学」がチュニジアで開催されることになった。イノウエバルーンだけでなく、将来的には心臓学・循環器学に必要な日本の知識と技術をアフリカの国々に移転することを目的としている。



第三国研修の第一回目は、2025 年 7 月に 7 ヶ国から 13 人の医師を招聘して、徳洲会グループ湘南鎌倉総合病院の齋藤滋先生の指導により開催された。第一回目を終えて齋藤先生からは、狭心症や心筋梗塞などの動脈硬化性心疾患が爆発的にアフリカで増加すると見込まれる中、PTMC の有効性は認めながらもカテーテル手技を行える医師を育てることの難しさが指摘された。

第三国研修を毎回発展させて、講義と実技を交えながら人材育成をしていくことが今後の日本のアフリカ医療支援のカギになる。

\* 2025 年第三国研修の様子は以下の映像で（JICA 提供）。

[https://www.youtube.com/watch?v=bd9\\_H-b3rv8](https://www.youtube.com/watch?v=bd9_H-b3rv8)

## 【未来を育む：国際協力をととしての学校給食推進に日本が果たす役割を考える】

8月22日（金）10:00-11:30 展示ホールD S-06

教育のためのグローバルパートナーシップ(GPE)主催、アフリカ開発協会共催

### プログラム

司会：広島大学教育開発国際協力センター 日下部達哉教授

開会の挨拶（矢野哲朗会長）

ご挨拶（あべ俊子文部科学大臣）

ご挨拶（山本順三参議院議員）

Special Presentation（ケニア共和国大統領夫人 H.E. Ms. Rachel Ruto）

基調講演:Global Perspective on School Nutrition（Charles North GPE 副 CEO）

Fire-side Chat – アフリカからの声

Mr. Manos Antoninis, Director, GEM Report UNESCO

リベリア教育大臣 H.E. Dr. Jarso Maley Jallah

ガーナ教育大臣 H.E. Dr. Haruna Iddrisu（映像）

Lightning Presentation

文部科学省 初等中等教育局健康教育・食育課 齊藤るみ学校給食調査官

独立行政法人国際協力機構（JICA）人間開発部 森下拓道部長

株式会社ユーグレナ 出雲充代表取締役社長

味の素ファンデーション 本多正史ガーナ事務所所長

Aligning Financing and Expertise for Scale & Quality

外務省国際協力局 今西靖治参事官

質疑応答



GPE は世界銀行のもとで作られた基礎教育のための国際協力機関で、途上国が基礎教育を充実させるための資金を集め、教育システム構築などの手助けをする仕組みを提供する基金である。アフリカ開発協会では、GPE ボードメンバーの議長キクウェテ元タンザニア大統領閣下からの依頼で、2024 年初夏から GPE の日本での活動を支援している。

TICAD9 では、学校給食に焦点をあてて様々な立場の方々からお話を伺った。

アフリカの飢餓と健康不良は、今も何百万人の子どもたちにとって学習障壁になっている。それを学校給食で補い、学習効果向上、登校率の改善、ひいては不平等の是正につなげていく必要がある。100 年以上前に始まった日本の学校給食制度には学ぶところが多く、文部科学省や JICA をとおしてガーナやマダガスカルなど多くの途上国で参考にされ実践されている。GPE のような多国間プラットフォームと連携することで、このような日本の個の活動が益々影響力を強めることだろう。

尚、ケニア大統領夫人はご自身の活動の映像を披露し、学校で給食を提供するだけでなくその材料となる野菜を学校で育て、また児童が各家庭でも野菜を育てるよう支援していることを紹介した。そして、このような活動は慈善ではなく将来への投資なのだと強調した。リベリアの教育大臣からは、給食の有り無しが子どもたちの就学率に影響することが指摘され、ここでも地域で食料を調達する動きがあり、その結果女性をエンパワーし子どもたちを健康且つ勤勉にしていると紹介があった。日本のことわざ「ちりも積もれば山となる」にあるように、小さな努力が大きな変革を生み出すと力強く語った。

GPE は来年増資会合を予定している。前回 5 年前の増資会合の際には、日本政府は G7 の中でも最下位、しかもかなり少ない支援を約束しただけであった。人口減少が激しい日本は、アフリカの人々の助けが必ず必要になる。その時に後悔しないように、今、アフリカの子どもたちの教育に力を入れるべきだ。それは慈善ではなく、将来への投資なのだから。



# TICAD9 公式テーマ別イベント 展示主催・共催

## 【一般社団法人アフリカ開発協会】

8月20日(水) - 22日(金) 展示ホールDB-42

アフリカ開発協会主催、徳洲会グループ、ジー・キューブ、SOIK、Warrantee 共催

アフリカ諸国でも感染症だけでなく、日本と同じように非感染疾患疾患が大きな課題になっている。自分の体の状態を常に把握し、適切な食事を摂り、適度な運動をすれば、非感染疾患疾患の予防に役立つ。また、質の高い医療サービスを手ごろな値段で受けられる仕組みを作ることも重要だ。そんな視点で、日本が持つ技術、知識、手法がアフリカの医療を下支えするヒントになるのではないかと、会員企業から4社を紹介した。病院経営はさることながらアフリカでの支援活動も盛んな徳洲会グループ、医療機器や医療システムを製造しているジー・キューブとSOIK、医療財政・保険の分野で活動を始めている Warrantee の4社である。

8月21日に開催された前述のセミナーの後には、特にブースを訪ねる人が多く、各社ともそれぞれの製品やコンセプトを伝える機会に恵まれた。



In African countries, non-communicable diseases (NCDs) are as big a problem as infectious diseases, just as they are in Japan. It goes without saying that people can prevent NCDs to a certain extent by eating a balanced diet, exercising regularly, undergoing regular checkups at nearby medical facilities, and understanding their own bodies. And if they know that they can receive high-quality medical care at reasonable prices even if they do become seriously ill, they will feel more secure. So where should you start? Here are AFRECO's four member companies that can provide some useful hints.



The Association of African Economy & Development (AFRECO) has been working since 1970 to promote economic exchange with African countries and contribute to mutual prosperity. AFRECO facilitates infrastructure development cooperation with African countries and regions, bringing economic benefits to the Japanese government and businesses. This promotes the development of small and medium-sized enterprises in both countries, serving as a driving force for growth. Additionally, AFRECO also provides educational support to open the future of Africa. From TICAD VI to TICAD 7, AFRECO held regular study sessions, inviting Japanese medical professionals working in Africa. In 2018, AFRECO suggested conceiving the "Africa Health and Wellbeing initiative (AIHWINI)" to the Cabinet Secretariat, which catalyzed the Japanese government's Universal Health Coverage (UHC) initiative. Since then, AFRECO has invited numerous medical-related companies and individuals to join as members and has formed several projects through their support and collaboration. Among the member companies, AFRECO introduces four that have developed and promoted projects for the people of Africa, addressing the continent's

issues and transferring the knowledge and technology they have cultivated. **G CUBE...** Medical equipment and system manufacturing **SOIK...** Medical equipment and system manufacturing **Tokushukai...** Hospitals **Warrantee...** Medical finance and insurance The strength of AFRECO lies in its network of members and affiliated organizations both domestically and internationally, which includes not only healthcare professionals such as doctors and hospitals but also universities and organizations engaged in research in fields such as medicine and bio medical engineering, manufacturers of medical devices and pharmaceuticals, private companies analyzing health checkups and test results and managing data, and financial institutions. AFRECO supports the activities of its members and, at times, brings them together to brainstorm and develop plans, taking the lead in their implementation. AFRECO will continue our efforts to contribute to the lives of people in African countries and those living in Africa. Please feel free to contact us.



アフリカ諸国でも感染症だけでなく、我が国と同じように非感染疾患疾患が大きな課題だ。本人が適切な量と質の食事を取り、適度な運動を、身近な医療施設で定期的に検査を受け、己の体をちゃんと理解しておくことで、非感染疾患疾患もある程度予防できることは言うまでもない。そして万一深刻な病になっても質の高い医療サービスを手頃な値段で受けられることがわかれば安心だ。そのためには何から始めればいいのか。ここにヒントとなる当協会会員企業から4社を紹介する。

一般社団法人アフリカ開発協会は、1970年以來、アフリカ諸国との経済交流を促し相互繁栄に寄与することを目的として活動している。日本政府や企業に経済効果をもたらすようなアフリカ諸国そして地域のインフラ整備協力、開発の力となる双方の中小企業発展を促す案件形成、未来のアフリカを拓く教育支援を行う一方、特にサブサハラ・アフリカに暮らす人々が質の高い生活ができるよう保健分野でも案件形成、支援を続けている。

アフリカ開発協会は、2016年からアフリカで活躍する日本人の医療従事者を招いて定期的に勉強会を開催した。2018年には「アフリカ健康構想」を内閣官庁に提出し、日本政府のUHC 展開に一石を投じた。それ以降、協会会員として多数の医療関係企業、個人を招き、支援、連携しながら幾つもの案件を形成している。

ここに紹介するのは、そのうちの4社で、それぞれアフリカの課題を捉えながら、アフリカの人々のための企業を開発、推進し、培った知識や技術を移転している。

- G CUBE... 医療機器、システム製造
- SOIK... 医療機器、システム製造
- 徳洲会... 病院運営
- Warrantee... 医療財政、保険

アフリカ開発協会の強みは、会員や国内外の関係組織に、医師や病院などの医療現場の提供だけでなく、それを支える医学や臨床工学などを研究し、未来の医療従事者を育成する大学や組織、医療機器や医薬品を開発・製造するメーカー、最新診断や検査結果を分析しデータ管理する民間企業、そして金融の団体がいることだ。当協会には各会員の活動を支援するほか、時には会員を揃えて一緒に考え企業を練り、実現に向け主導していくこともある。

これからもアフリカ諸国の政府やアフリカに暮らす人々の生活の一助になるべく活動していきたい。

## 展示ポスター

## 【日本ジブチ友好協会】

8月20日（水） - 22日（金）  
展示ホール D B-52

日本ジブチ友好協会主催、アフリカ開発協会共催

アフリカ開発協会の理事の多くが、日本ジブチ友好協会の役員を務めている（新井辰夫会長、矢野哲朗顧問、渡邊一浩理事、有山聡事務局長）。今回の展示は、「アフリカの角・ジブチとの共創に向けて」というテーマで、会員企業のジブチでの活動やジブチにミッションを送ったときの状況などを紹介した。

期間中には、ジブチの外務大臣も見学に訪れた。



## TICAD9 公式テーマ別イベント 後援

### 【TICAD GAMES 2025 国際剣道大会】

8月22日（金） 横浜武道館 9:30-17:00

チュニジア日本友好協会主催、横浜市剣道連盟主管、アフリカ開発協会ほか後援

TICAD8の時にチュニジアで始まったTICAD GAMESは、TICADプロセスが人を育て磨くことを重視しているのを踏まえ、日本人が大切にする礼節や相互尊重を伝えながら国際交流を深め、結果としてより良いアフリカ、より良い世界を作る事を目的としている。今回は、剣道はその手段として、日本、チュニジア、コンゴ共和国、南アフリカ、フランス、イギリス、ベルギー、マレーシア、タイから多くの選手が集まった。大会会長は、サラ・ハンナシ元駐日チュニジア大使。

大会後のレセプションでは、人材育成のこの側面を今後どのように伝えていくかなど、盛んに意見が交わされた。



## TICAD9 要人との意見交換



ボツワナ副大統領兼財務大臣



モーリタニア大統領



ケニア大統領夫人

マヤキ AU 食料  
システム特使

アンゴラ大統領



ガーナ外務大臣、ガーナ大使



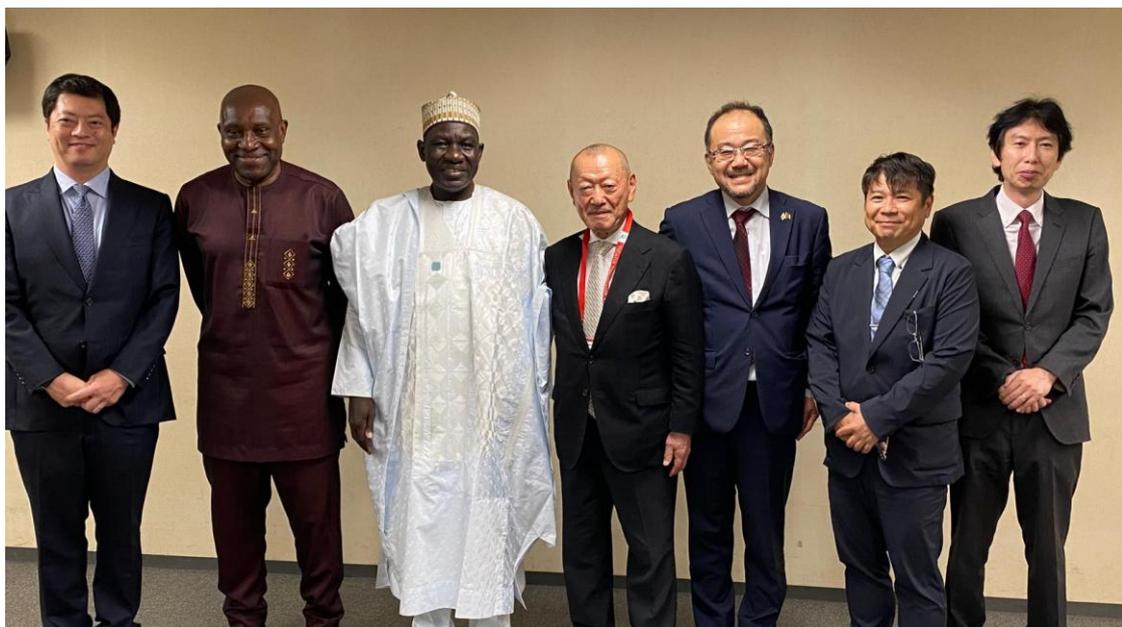


チュニジア首相

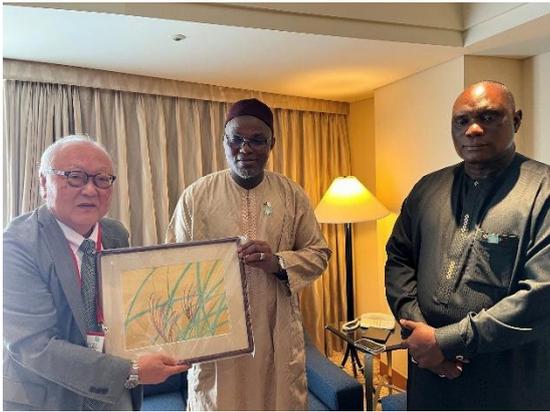
モザンビーク大統領



南アフリカ大統領



カメルーン経済計画国土整備大臣



ガンビア副大統領



ジブチ外務・国際協力大臣

## MOU 署名式出席

8月21日(木) 17:30

ジー・キューブ、チュニジア・パスツール研究所

アフリカ開発協会では会員企業のアフリカ進出を多く支援してきたが、TICAD8の時にJV、NIPPOMEDをチュニジアに設立したジー・キューブが、この度、新たにチュニジアのパスツール研究所と抗体及びワクチンなどの生産に関する共同研究開発に向けたMOUを締結した。2度のTICADを経てジー・キューブの活動フェーズが進んでいると感じる一幕であった。



# 参考資料

内閣官房作成資料から

(URL: [https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/health\\_africa\\_250620.html](https://www.kantei.go.jp/jp/singi/kenkouiryou/torikumi/health_africa_250620.html))

複数社連携事業 1 ケニア 

AFRECO   

## モバイル技術を活用した医療・保健サービスの向上

人材育成    DXによる保健システム改善    保健・医療インフラ整備    保健・医療分野のファイナンス

### 一般社団法人アフリカ開発協会

アフリカ開発協会はアフリカ医療に従事する団体・個人と勉強会を重ね、アフリカのための保健案件形成・実現に取り組んできました。2018年に、アフリカ健康構想案を内閣官房に持ち込んだのもその一環です。今回の取組では、MOUを結んでいるケニアのジョモ・ケニヤッタ農工大学医学部に会員企業の医療製品と医療情報プラットフォームを紹介し、その運営に欠かせない適切な政策や資金源の提案をします。

### 株式会社ジー・キューブ

株式会社ジー・キューブは、腸内フローラ検査をはじめ、SNP解析や各種感染症に対応した体外診断用検査キットの開発・製造・提供を行う、先端検査技術に特化したライフサイエンス企業です。今回の取組では、排卵、尿糖・尿蛋白の検査キット、並びに検査結果の記録や分析を行うためのプラットフォーム「My Chart」を提供します。

### 株式会社クニエ

株式会社クニエは、アフリカをはじめとする新興国におけるデジタル変革の豊富なビジネスコンサルティング経験を活かし、ケニア、ひいてはアフリカの保健医療課題に対し、現地ニーズに即したデジタル活用戦略を提案し、実行をサポートします。今回の取組では、事業モデルや制度の構築、現場での実装を一貫して支援し、持続可能な医療の実現に貢献します。

### ジョモ・ケニヤッタ農工大学 (JKUAT) 医学部

1981年にケニアと日本の両政府によって中級専門学校として設立され、1994年に大学に。保健、農業、工学、技術分野における持続可能な開発を導く高等教育・研究機関として認知されています。ケニアの保健システム強化に重要な役割を果たし、UHCの実現に向け作業手順書やツール開発のための専門知識を政府に提供しています。今回の取組ではフィールドワークに加え、保健システムや政策の分析を担います。

### 連携の背景

NCDsに焦点を合わせて国内の医療を充実、デジタル化させたいと考えるJKUATと、国民の意識も変えながら地道で持続可能な改革をしようと立ち上げたのが今回の取組です。色々なドナーが医療情報プラットフォームの実証試験をしても、資金不足や他のシステムを受け入れないことから行き詰まる事があります。そこで医療、モバイル技術、データ処理技術、金融の専門家が連携しました。

### 連携による協業内容・シナジー

実証は今夏始まりますが、この取組が進むと患者様の健康管理・ケアの質の向上に役立ちます。患者様は健康管理するツールを得て、症状や薬の服用状況を記録し身体状況を可視化でき医師とも具体的に話ができます。病院やJKUATにとってはケアの向上に役立ち、エビデンスに基づく意思決定が可能になります。加えて、JKUATの報告を基に政府はeヘルス政策の具体的な成果を発表、国民の理解を得て政策の具体化を進められます。

## 医療情報インフラの強化を目指して

### モバイル技術を活用して患者様、医療提供者、公衆衛生機関を接続。保健サービスを実現するための道筋を確立

ケニアの保健政策の目的と現状のギャップを分析し適切な政策などを提案しつつ、その目的を達成するための資金源を提示します。特にベスト・プラクティスを検討しながら、PPPの導入可能性を検証します。同時に、JKUATが提携する3つの地区の病院と連携して、患者様に免疫クロマトグラフィーキットやその他ポイント・オブ・ケア検査キットを配布、結果を携帯電話で撮影し、MyChartというアプリを使って病院に自動送信します。検査結果を医師の診断材料とするとともに、JKUATで全データの集計分析し傾向を把握することによって保健省の対策や政策立案に役立てます。この過程の中で患者様は自分で検査を行うことから健康への意識が高まりますし、病院に行くべき時の判断がつきやすくなります。

### 官民・民民連携実績

この取組を考えていると相談に行った時から、AfDBアジア代表事務所と一緒に内容を精査、発展させ資金援助の約束を下さいました。この援助により企業がもつ技術やシステムをJKUATに移転し、JKUATは検査機関としての機能も備えます。またJKUATがeヘルス政策にも貢献していることからケニア政府にも裨益し、これをモデルケースとしてケニア国内、他国へも展開できると考えています。



活用した公的支援スキーム(例)：AfDB「開発政策・人材育成基金(PHRDG)」

TICAD9

AFRECO

# TICAD9 パートナー事業 主催、共催

## 【ラウンドテーブル：アフリカの教育改革における日本の役割】

2024年8月27日（火） 参議院議員会館

アフリカ開発協会、GPE 共催

アフリカ連合の Year of Education にあたり、日本・アフリカ間の教育協力について在京アフリカ大使と現状共有し、TICAD 9 に向け国際教育協力に関する各国の意見を集約した。

## 【ザンビア独立 60 周年記念プログラム ザンビアを語る ザンビアの保健事情と日本の支援】

2024年11月21日（木） 帝京大学

アフリカ開発協会、帝京大学、特定非営利活動法人ロシナンテス共催

ザンビアの保健分野を中心としたセミナー及びパネルディスカッションで構成されるイベント。ザンビア独立 60 周年を記念し、「これからのザンビア医療への日本の支援」について、様々な立場から話し合った。

## 【Study Session for the Future of Sudan スーダンの未来を考える】

2025年2月27日（木） 駐日スーダン共和国大使館

アフリカ開発協会主催、駐日スーダン共和国大使館共催

いまのスーダンを知り、将来紛争が収まったときに何ができるかを考える勉強会。スーダンで医療活動を続ける日本人医師等の話を聞いた。

## 【テクノロジーと教育に関するラウンドテーブル「日本の tech4ed はアフリカの教育システムを変革できるか？」】

2025年3月13日（木） 参議院議員会館

アフリカ開発協会、GPE 共催

GPE 議長キクウェテ元タンザニア大統領を招聘。教育分野でのテクノロジーについて、日本が提供できること、パートナー国が直面している課題を検証し話し合った。